

農作物への獣害対策に、雑草管理の徹底を。 農耕地や電気柵の周りの除草はバスタ!



電気柵の周りはバスタの雑草管理が効果的です。

このうち「①近づかせない」「②侵入させない」手段としていくつがある中で、「農耕地周りの雑草管理」と「電気柵の設置」があり、電気柵の設置では周囲の雑草管理を徹底することも重要です。まず、雑草管理ができていない場所は格好の餌場になり、イノシシを引き寄せてしまいます。

- イノシシ対策3か条**
- ① 近づかせない
 - ② 侵入させない
 - ③ 捕獲する

問題 題になっっている鳥獣害による農作物被害。被害金額は、近年約200億円前後で推移しています。鳥類が約35億円。獣類が165億円で、その6割はイノシシとシカ、特にイノシシが約55億円を占めます。作物別には、水稲25億円、果樹11億円、野菜9億円。この被害が生産者の営農

意欲の減退や、耕作放棄地の増加をもたらすし、農村地帯に深刻な影響を与えています。

電気柵の効果をも十分に発揮させるには雑草管理を

さて、最も額の大きいイノシシによる被害に焦点を当てると、その対策は大きく3つ挙げられます。

野生鳥獣による都道府県別農作物被害状況(平成25年)

都道府県	被害額 (万円)
北海道	550,850
宮崎	68,736
兵庫	58,219
福岡	55,366
長野	52,611
広島	43,008
岩手	42,734
岐阜	41,150
山口	40,924
京都	39,387
群馬	37,267
熊本	35,133
鹿児島	35,102
静岡	34,555
和歌山	30,637
その他	470,110
合計	1,635,789

農林水産省ホームページより抜粋

伸びた雑草は潜み場にもなります。そして電気柵では、雑草管理を怠ると伸びた雑草がワイヤーに触れ、漏電する心配があります。

ところが、電気柵の支柱付近では電線や支柱を切断する恐れがあるため、刈払い機が使えません。

そこで、バスタを使った管理をお勧めしています。電気柵を傷つける心配がないだけでなく、除草作業を省力化できます。抑草期間も30〜40日間持続するバスタで、賢く雑草管理し、獣害による農作物被害を減らしてください。

電気柵の周りの雑草管理に、バスタをお勧めする理由

- ① 畦、のり面を崩しにくい除草剤です。
- ② 電線に対してほとんど影響がありません。
- ③ 野菜畑や果樹園など登録作物が多い。
- ④ 散布後2〜3日程度で速攻的に効果が現れ、30〜40日程度抑草します。



ますます多様化する日本人の食生活の中で 人気を高める「食用桑」にもバスタ!

特集

この作物に
登録アリ!
食用桑
(葉・果実)

蚕

の飼料として広く知られている桑。東アジア原産の落葉中高木で、大きいものは15m位になります。日本の童謡「赤とんぼ」に歌詞の中にも「桑の実」という言葉が出てきますが、桑の実



食用桑
(葉・果実)

桑の実

実はマルベリーと呼ばれ、果実酒やジャムの原料にもなります。北関東では「どごめ」という呼び名もあり、「ドドメ」という黒紫色を表す言葉の語源になったとも言われています。

これまで、桑の実を果

桑の葉

日本では鎌倉時代から薬草として用いられてきました。葉中には、カルシウム、ビタミン類、食物繊維等の栄養素を多く含んでおり、お茶や果汁などが健康食品として注目されています。桑の葉茶は香ばしさが特徴で、ほうじ茶感覚で飲め

樹として栽培したり、生果で出荷したりするところはありません。しかし、近年の消費者ニーズの多様化から、県によつては品種を選定したり栽培を開始したりしている地域もあります。果実は、甘酸っぱく、抗酸化作用のある色素「アントシアニン」をはじめとするポリフェノールを多く含有します。

■バスタの登録内容 (2015年5月現在)

作物名	適用雑草名	使用時期*	10アールあたり 使用量(mL)	総使用回数**
食用桑 (葉・果実)	一年生雑草	45日 (雑草生育期 春期萌芽前または夏切後萌芽前)	300~500	3回

[使い方] 希釈水量10アール当り100~150ℓを雑草茎葉散布

*印は収穫物の残留回避のため、その日まで使用できる収穫前の日数を示します。

**印はグルホシネート及びグルホシネートPを含む農薬の総使用回数の制限を示します。

るため、是非試してください。
バスタは「食用桑(葉、果実)」に登録があります。雑草生育期に、200倍に希釈したバスタ液剤を、樹下の雑草へ丁寧に散布してください。

REPORT



日本各地のバスタ情報 ~ 関西編 ~

レポーター: バイエル クロップサイエンス(株) 大阪営業所 福井県 京都府担当 赤澤 直樹

イノシシ、シカ、サルなどの獣害が近年増加しており、電気柵を設置して作物を守る対策を実施しています。しかし、電気柵を設置しても管理を怠れば、せっかくの柵も効果が上が

りません。ですので、電気柵周辺の除草作業が重要になってきます。

ところが、除草作業には大変な労働力が必要で、さらには、設置している場所が平坦とは限らず、足場の不安定な急斜面で草刈機を使う作業では、安全にも気を配らなければなりません。

そこで、電気柵の周りの除草にバスタをおすすめしています。バスタ液剤の100倍散布効果試験を

行った結果、十分な除草効果を得ることができました。また、草刈機作業よりも省力化につながったことも実証できました。

電気柵周辺における散布および管理のポイントは、電気柵の外側を歩いて除草剤散布や電線管理をすることです。なぜならば、獣には人間と一定の距離を保つ習性があるため、電気柵の中を歩くと農地と獣との距離が近くなってしまい、農地に侵入される確率が高くなるからです。

今後も様々な場面でバスタ液剤を利用いただけるよう、普及推進に取り組んでいきたいと考えております。



散布前



散布後

電気柵周りの急斜面での効果

大切な
作物のそばに。



バスタ

バイエルクロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 www.bayercropscience.co.jp

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00,13:00~17:00 土・日・祝日を除く

詳しくはバスタの情報サイトへ
www.basta.jp/

(F-3224 15.05.1S)